

大阪教育大学 修学支援センター活動報告

2020 年度 第 1 号

目次

巻頭言・・・・・・・・・・・・・・・・・・	山本 利和 (1)
障がい学生修学支援ルーム活動報告・・・・・・・・	藤原 朝洋 (2)
カウンセリングルーム活動報告・・・・・・・・	奥田紗史美 (5)
活動報告総括・・・・・・・・・・・・・・・・	奥田紗史美 (11)
2020 年度活動日程報告・・・・・・・・・・・・・・・・	(13)
修学支援センタースタッフ一覧・・・・・・・・	(14)

巻頭言

修学支援センター長 山本利和

2019年に発生した新型コロナウイルス感染症は2021年に入っても感染拡大が止まらず、世界的な広がりを見せています。今から100年ほど昔、第1次世界大戦中に発生したスペインかぜは世界人口の25%～30%に感染したといわれています（感染症情報センター）。このスペインかぜは世界人口のおよそ1/3ほどに感染し、推定致死率は2.5%と高かったと言います。しかも感染は2年間も続き、第1次世界大戦の終結に影響を与えたと言ったことがあります。今回の新型コロナウイルス感染症も感染が2年目に入った今も、感染の広がりが続いています。

スペインかぜの時代と違って、現在ではワクチンの接種や感染を防止しようとする取り組みが大学も含めて広く実施されているので、病気の影響は押さえられていると思います。こうした感染を防ぐための積極的な取り組みは合理的に考えて正しいことなので、対策への協力はしかたの無いことだと諦めて、学生も行動を慎重にしなければいけないでしょう。

しかし青年期の学生にとって、友達との交流、授業への参加、クラブ活動、アルバイト先などの機会が失われることは学生達の社会生活を蝕んでいるようにも感じます。不規則な日常生活になじめない学生や、感染への不安を一人で背負ってしまう学生などもいるのではないのでしょうか。

こうした新型コロナウイルス感染症という不安定な要素を抱えた2021年にあっても、修学支援センターでは、様々な状態に対応できる相談・支援環境を提供することで、学生の修学に貢献できることを願っています。学生はわが国の大切な人材であります。そうした学生たちのニーズに寄り添った支援を通じて修学が滑らかに進展し、優れた人材が羽ばたくことを願っています。

2020 年度（令和 2 年度）障がい学生修学支援ルーム活動報告

コーディネーター 藤原朝洋

1. 月別利用状況（4 月～3 月）

2020 年度の障がい学生修学支援ルームの利用学生の推移は表 1 の通りである。年度当初の新規利用学生が昨年度に比べて大幅に減少し、4 月と 5 月の新規利用は 2019 年度の 18 名に対して、2020 年度は 5 名となっている。その結果、12 月末時点で、新規利用学生は 18 名と 2019 年度の同時点（31 名）の 2/3 程度となっている。

利用学生の減少については、①大学に来ることで負担（障がい）が生じる一部の学生にとってオンライン授業導入が負担軽減につながった、②指導教員や授業担当教員が学生の状況に気づきにくく、障がい学生修学支援ルームに繋がりにくくなった、等の要因が考えられる。

表1. 2020年度 障がい学生修学支援ルーム利用学生の推移(月)

2020年度	視覚	聴覚	肢体不自由	病弱	重複	発達	精神	その他	柏原	天王寺	その他	新規	累計
継続	1	5		2	3	3	4	2	18	2			20
4		1		1	1		1			4		4	24
5	1										1	1	25
6				1			1	1	3			3	28
7								1	1			1	29
8							1		1			1	30
9				1			1		2			2	32
10							3	1	3	1		4	36
11					1				1			1	37
12							1		1			1	38
1							1		1			1	39
2							1	1	2			2	41
3	1	2				1	1		5			5	46
計	3	8	0	5	5	4	15	6	38	7	1	31	46

※ 複数の障がい項目にまたがる者は重複として扱う

表2. 2019年度 障がい学生修学支援ルーム利用学生の推移(月)

2019年度	視覚	聴覚	肢体不自由	病弱	重複	発達	精神	その他	柏原	天王寺	その他	新規利用	累計
継続	2	5	1	1	4	2	4	2	16	5			21
4	1	2				3	3	5	14			14	35
5			1	1			2		4			4	39
6							1		1			1	40
7				1			1	1	3			3	43
8								1	1			1	44
9							1		1			1	45
10								1	1			1	46
11							1	1	2			2	48
12				1			2	1	4			4	52
1				2		1	1	1	5			5	57
2													57
3	1	1					1				3	3	60
計	4	8	2	6	4	6	17	13	52	5	3	39	60

※ 複数の障がい項目にまたがる者は重複として扱う

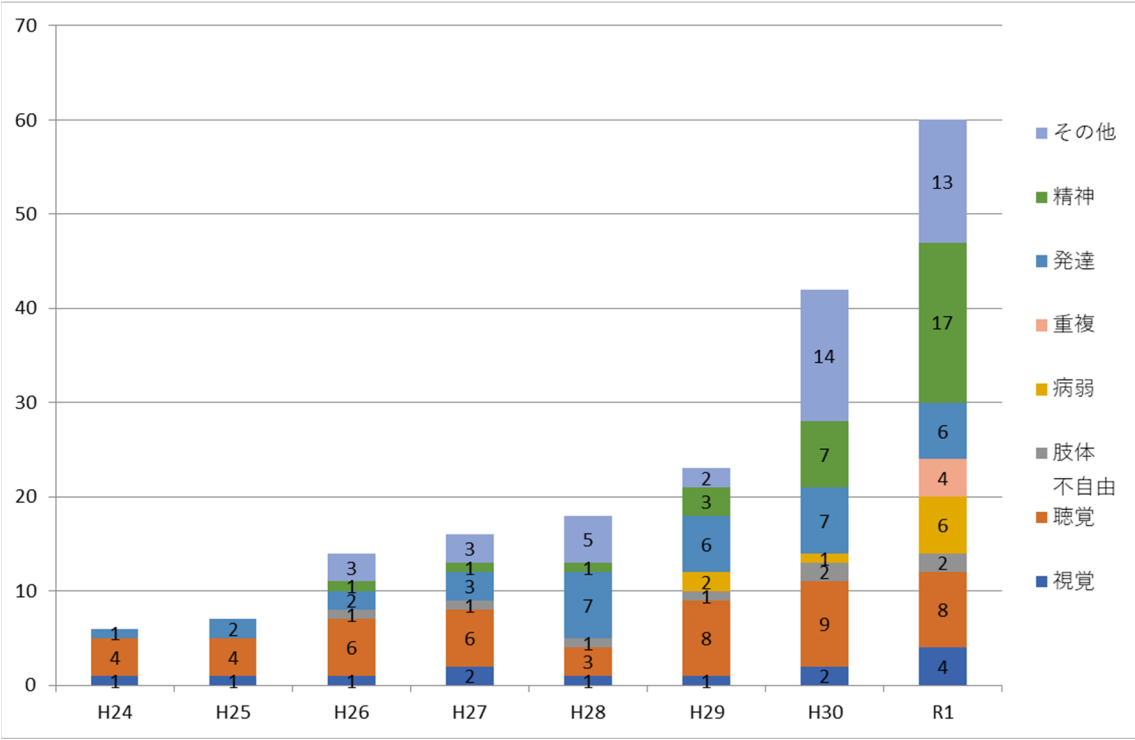
参考：

表3. 障がい学生修学支援ルーム利用学生の推移(年)

年度 (和暦)	年度 (西暦)	学生 数	障 が い 学 生 数	在 籍 比 率	視 覚	聴 覚	不 自 由 肢 体	病 弱	重 複	発 達	精 神	そ の 他	柏 原	天 王 寺	そ の 他	継 続	新 規
H24	2012		6		1	4				1							
H25	2013		7		1	4				2							
H26	2014		14		1	6	1			2	1	3					
H27	2015		16		2	6	1			3	1	3					
H28	2016		18		1	3	1			7	1	5					
H29	2017		23		1	8	1	2		6	3	2					
H30	2018	4605	42	0.91%	2	9	2	1		7	7	14					
R1	2019	4496	60	1.33%	4	8	2	6	4	6	17	13		51	5	4	21
R2	2020	4349	38	0.87%	2	6		5	5	3	12	5	30	7	1	20	18

※入学予定者は入学前の面談等を実施した場合は該当年度の新規として扱うが、その後入学した場合は入学年度の新規として扱う。
※2020年度より「重複」の項目を新設し、複数の障がい項目にまたがる者は重複として扱う。H30までは「重複」に該当する学生は「その他」に含まれている。
※2020年度については12/31時点での数値

図1. 障がい学生修学支援ルーム利用学生の推移(年)



2. 主な取り組み（4月～12月）

（1）情報保障体制の再構築

オンライン授業に対応するため、これまで使用していた IP トーク（対面での支援を想定）から、筑波技術大学が開発・運用している遠隔情報保障の captiOnline を導入しました。また、動画の字幕挿入についても、これまで障がい学生修学支援ルームに支援協力学生が来室して作業していた従来のシステムから、Youtube の自動字幕作成と字幕修正機能を利用したシステムに変更しました。これらの新たな情報保障システム導入に伴い、LINE と Zoom を活用した支援協力学生の研修をオンラインで実施しました。

なお、Youtube の字幕修正については、字幕修正に関する一部サービスが9月に終了となり、新たな字幕修正システムとして Vrew を導入することを決めたため、現在支援協力学生の協力を得て、マニュアル作成や研修の準備に取り組んでいます。

（2）コーディネーターの担当変更

オンライン授業に対する情報保障ニーズの増加に伴い、情報保障の手配の困難化が起きています。従来は固定化した授業に支援協力学生をルーティンで手配することができていたため、支援協力学生の手配は職員に任せることができていましたが、対面だけでなく、Zoom やオンデマンド（その中でも動画の有無や先生によってやり方が微妙に異なる）など、授業形態が多岐にわたり、また授業の形態が定まっていない授業や急遽授業形態が変更となる授業もあります。これらに対応するために、天王寺担当のコーディネーターに情報保障全般の手配を担当してもらい、柏原担当のコーディネーターがキャンパスに関わらず情報保障以外の障がい学生の対応をするような業務分担をおこなうようになりました。

（3）

面談等のオンライン化

大半の学生に対しては、Zoom や電話を利用した面談（状況確認や必要な配慮の確認等）を実施し、一部の学生に対しては希望があれば対面での面談を実施する形に面談形式を変更しました。また、申請の手続きについても、これまで手書きで窓口での手続きや受け取りが必要だった申請書類を Moodle を利用したオンライン申請・ダウンロードが可能となるように変更を行いました。

（4）アクセシビリティに困難を抱える学生への対応

従来は障がいのある学生の対応が、障がい学生修学支援ルームの主な業務でしたが、4月以降の状況の中で、必ずしも障がいがあるとは言えない学生（グレーゾーン：ひきこもり傾向、情緒不安定）や障がいのない学生（高齢者との同居など対面授業に不安を感じる学生や妊娠した学生等）への対応も他部署や学生、教職員からの要望もあり、対応しました。

コロナ禍という特殊な状況の中で、障がいの有無に関わらず、支援が必要な学生（と保護者や教職員）に対して障がい学生修学支援ルームとしてできる対応を柔軟に提供しました。

2020 年度（令和 2 年度）カウンセリングルーム活動報告

カウンセラー 奥田紗史美

1. はじめに

2020 年（令和 2 年）度 4 月に修学支援センターが発足し、カウンセリングルームは障がい学生修学支援ルームと共に、修学支援センター内の一部門として位置づけられることとなった。

2007 年（平成 19 年）に非常勤カウンセラー 2 名と兼任教員 1 名の相談体制で開室したカウンセリングルームは、当時は、場所はあるものの組織的な位置づけは特になされていなかった。2012 年（平成 24 年）に柏原に専任カウンセラーが着任し、天王寺にも 1 名非常勤が増員され、柏原（週 5 日）、天王寺（週 2 日）の体制となった。さらに 2015 年（平成 27 年）には、柏原キャンパスの時間増が認められ、天王寺キャンパスの非常勤カウンセラーが柏原でも相談を担当することとなり、柏原は週 5 日中 1 日をカウンセラー 2 名体制で開室できるようになった。それに先立ちこの年の 3 月には、学内規程としてカウンセリングルーム設置要項が制定され、カウンセリングルームが明確に学内組織として位置づけられた。その体制は、学生支援担当の学長補佐が役付きでルーム長を兼務し、専任 1 名、非常勤 2 名のカウンセラーで柏原（週 5 日。うち 1 日は 2 名体制）と天王寺（週 2 日）の相談を担当するというものであった。また、同年全学で学生総合支援ネットワークが発足し、カウンセリングルーム、障がい学生修学支援ルーム、キャリア支援センター、なんでも相談窓口を中心とした学内組織の連携が強化された。2019 年（平成 31 年）4 月からは、改組に伴い天王寺キャンパスの時間増が認められ、天王寺も週 3 日開室できるようになった。なお、同年 8 月より専任カウンセラーが産休に入り、その代行として非常勤カウンセラー 1 名が着任し、2020 年（令和 2 年）9 月末まで勤務した。その間、天王寺の相談体制に影響はなかったが、柏原は非常勤カウンセラー 2 名で、週 4 日（月～金）、1 名体制で開室した。また、先に述べたように 2020 年 4 月には修学支援センターが発足し、それに伴いカウンセリングルーム設置要項は廃止され、センター規程が制定された。その結果、2020 年度からは修学支援センター長が障がい学生修学支援ルームとカウンセリングルームの業務を掌握し、センター担当教員（専任カウンセラー）と非常勤カウンセラーが、修学支援センター内の一部門であるカウンセリングルームにて学生のカウンセリングを行うという体制に移行した。9 月末には専任カウンセラーが育休より復帰し、従来の相談体制に戻った。なお、本学のカウンセリングルームのカウンセラーは全員、公認心理師と臨床心理士の有資格者である。

以上のように、カウンセリングルームは当初、学内では組織的に位置づけられておらず、スタッフの所属も様々であったが、この度のセンター改組によって、それらの課題については概ね相応の着地点に達したものと思われる。大学組織としての位置づけを確かなものにするには、現場で学生の相談にあたるカウンセラーが、どのように組織に守られ、どの範

囲で責任を持って業務にあたるのかを明示するものでもあり、カウンセラー自身が安心してカウンセリングに臨むことができるという点でも重要な意味がある。

さらに、2020年度（令和2年度）はカウンセリングルームにとって、先に述べた修学支援センターへの移行のみならず、専任カウンセラーの産育休による相談体制の変更、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う社会状況の変化という波が一度に押し寄せた年であった。新型コロナウイルス感染症流行の影響は、現在進行形で拡大、変化している。2020年度の対応については、のちに項を改めて述べる。

2. 利用状況

（1）年間相談状況

表1に、月別の新規来談者を相談内容別に分類し、再来談（終結後、別の主訴で改めて来談）と前年度より継続の来談者数とあわせて示した。述べ面接回数も月別に集計し、同表内に示した。令和2年度の新規来談者は84名、再来談は17名、前年度からの継続が15名であった。特に新規申し込みは夏休み明けの9月～12月あたりに集中して多かった。例年は4月～6月あたりに新規申し込みの波があるが、本年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、4月7日から5月21日の除外まで非常事態宣言が発令していた。大学も4月19日まで休校措置、その後オンライン期間となっており、この措置によりそもそも学内へ学生が来ないため、カウンセリングへの来談も同時に減少した。この状況に対応するために、4月より電話での遠隔相談を実施した。他大学の状況等を鑑み、Zoomのアカウントを申請し、12月よりオンラインカウンセリングも実施している。

表1 令和2年度 カウンセリングルーム 月別・相談内容別・来談年次別来談者数および面接回数(柏原・天王寺キャンパス)

新規来談者数								令和3年3月31日現在			
	進路修学	心理性格	対人関係	心身健康	学生生活	その他	合計	再来※	前年度から継続	総合計	延べ面接回数
4月	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	3 (1)	1 (1)	10 (3)	14 (5)	30 (14)
5月	2 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (2)	0 (0)	1 (1)	4 (3)	23 (15)
6月	3 (2)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	2 (0)	1 (0)	9 (5)	3 (3)	2 (2)	14 (10)	59 (37)
7月	2 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	4 (2)	1 (1)	0 (0)	5 (3)	43 (28)
8月	3 (1)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	6 (4)	0 (0)	0 (0)	6 (4)	45 (24)
9月	4 (0)	3 (1)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (1)	10 (2)	0 (0)	1 (1)	11 (3)	70 (28)
10月	3 (1)	1 (1)	3 (2)	1 (0)	2 (2)	2 (2)	12 (8)	5 (4)	0 (0)	17 (12)	85 (44)
11月	4 (4)	1 (1)	3 (3)	2 (2)	2 (1)	0 (0)	12 (11)	2 (2)	0 (0)	14 (13)	77 (50)
12月	4 (2)	2 (2)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	9 (6)	0 (0)	0 (0)	9 (6)	83 (49)
1月	5 (5)	1 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	8 (7)	1 (1)	0 (0)	9 (8)	85 (61)
2月	2 (2)	1 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	5 (4)	0 (0)	0 (0)	5 (4)	75 (54)
3月	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	3 (2)	4 (0)	1 (1)	8 (3)	73 (45)
計	32 (18)	13 (9)	13 (11)	8 (5)	10 (5)	8 (6)	84 (54)	17 (12)	15 (8)	116 (74)	748 (449)

()内は女子

※再来:一旦終結後、別の主訴で来談したこと

表2に、学生の所属別に相談内容を集計した。また、在籍者数に対する来談者率を示した。相談内容としては、進路修学に関する内容が多い。例年との違いとしては、コロナ禍でのオンライン授業とそれに関する課題の多さについていけず、課題が提出できないままパンクしてしまう学生や、一日の時間をすべて自分でコントロールし、他者と疑問や進捗を共有できずに一人で課題をこなしていかなければならない状況に対して、孤独感や集中力の

低下、生活の乱れなど適応の難しさを感じ、来談する学生が複数名見られた。

表2 令和2年度 カウンセリングルーム 課程等別・相談内容別来談件数および来談率(柏原・天王寺キャンパス)

令和3年3月31日現在

	進路修学	心理性格	対人関係	心身健康	学生生活	その他	計	在籍者数	来談者率(%)
教員養成課程	17 (8)	6 (6)	8 (7)	7 (5)	5 (3)	0 (0)	43 (29)	2372 (1275)	1.81% (2.27%)
教育協働学科／教養学科	21 (13)	9 (5)	5 (4)	4 (3)	6 (2)	0 (0)	45 (27)	1488 (827)	3.02% (3.26%)
第2部	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	90 (40)	1.11% (2.50%)
学部計	38 (21)	15 (11)	14 (12)	11 (8)	11 (5)	0 (0)	89 (57)	3950 (2142)	2.25% (2.66%)
大学院	1 (0)	3 (2)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	7 (5)	405 (157)	1.73% (3.18%)
特別支援教育特別専攻科	2 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	3 (2)	24 (13)	12.50% (15.38%)
その他	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	13 (8)	14 (9)		
卒業生	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (1)	3 (1)		
計	42 (22)	18 (13)	16 (14)	13 (9)	13 (7)	14 (9)	116 (74)	4740 (2495)	2.45% (2.97%)

() 内は女子

表3に、学年(回生)別の来談件数と延べ来談回数を男女別に示した。一回生、過年度生以外は女性の方が件数、回数ともに多く、例年通りの傾向となっている。女性の方が心理的に困難な状況に置かれているというよりは、女性は被援助指向性が高いという従来の傾向を反映しているものと思われる。

表3 令和2年度 回生別来談件数および来談回数

令和3年3月31日現在

来談者内訳	来談件数			来談回数		
	男	女	計	男	女	計
1回生	6 (6)	5 (5)	11 (11)	58	13	71
2回生	1 (1)	10 (9)	11 (10)	1	35	36
3回生	11 (8)	21 (16)	32 (24)	65	123	188
4回生	7 (7)	17 (11)	24 (18)	84	119	203
5回生以上	7 (4)	3 (2)	10 (6)	69	43	112
第2部	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0	6	6
大学院1回生	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0	3	3
大学院2回生	1 (0)	3 (0)	4 (0)	2	74	76
大学院3回生以上	1 (0)	1 (1)	1 (1)	2	2	2
特専	1 (1)	2 (2)	3 (3)	4	2	6
留学生(内数)	3 (3)	2 (2)	5 (5)	43	6	49
その他	7 (2)	10 (7)	17 (9)	14	29	43
計	42 (29)	74 (54)	116 (83)	299	449	748

() 内 新規来談者数

(2) 経年比較

図1に、統計を取り始めた平成19年から令和2年度までの、来談件数、延べ面接回数、及び来談者率の経年変化をグラフで示した。平成24年以降、稼働率は緩やかな増加傾向にあったが、令和2年度は先に述べた社会状況の影響により、特に延べ回数がやや減少している。

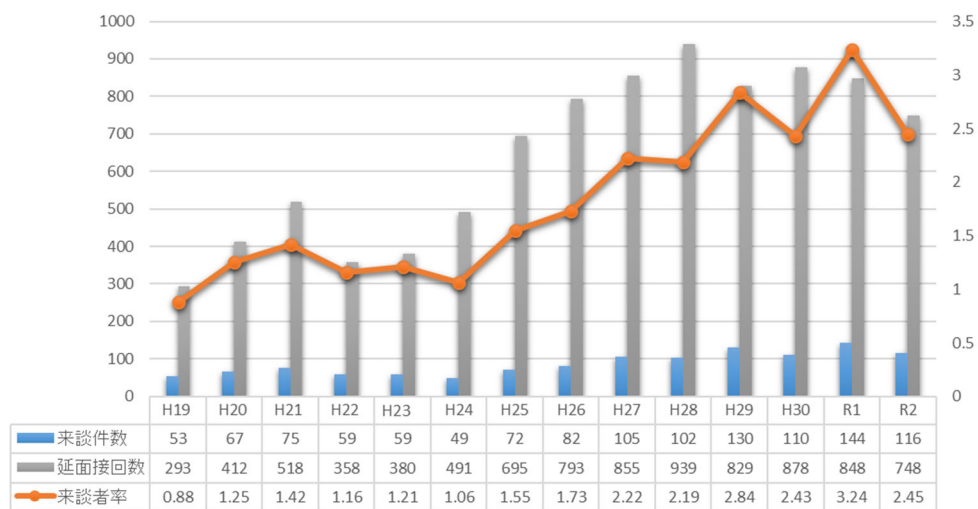


図1 来談件数, 述べ面接回数, 来談者率の推移(年)

表4は、月別の利用状況をキャンパス別に示したものである。図2にそのうち利用者数の月別推移を、図3に同じく述べ面接回数の推移を示した。

これらのグラフは特にコロナ禍の影響が来談に及ぼす影響を反映していると思われる。例年新規来談が多い4月と5月にキャンパスのある大阪府は非常事態宣言下にあり、その影響から来談が伸びなかった。5月末に宣言解除となって以降、対面相談再開の効果もあるのか、やや持ち直すものの、そのまま不要不急の外出は控えるというマインドが続いたまま、夏の長期休暇に入っている。9月はもともと夏休み中でそこまで利用者が多くはないが、令和2年度に限っては4、5月よりも利用者が多い。後期は一部対面が再開してキャンパスに若干学生が戻ってきており、その影響か相談件数も増加している。この時期はコロナ禍での心身の疲弊の訴えも多くみられた。また、10月以降は専任カウンセラーが育休より復帰し、柏原の開室が週4日から週5日に再開したことも、学生の来談のしやすさに影響したものと思われる。対して天王寺の来談が9月以降も変化がないことについては、天王寺自体がトータルで稼働時間が週1日半であり、柏原と比べて変化量をとらえるだけのサンプル数がそもそもないことや、遠隔相談にも対応できることが周知されていない可能性が考えられる。

表4 令和2年度 カウンセリングルーム月別利用状況

	新規利用者数			当月利用者数			延べ面接回数			遠隔相談(電話・メール等)		
	柏原	天王寺	全学	柏原	天王寺	全学	柏原	天王寺	全学	柏原	天王寺	全学
4月	3	0	3	8	7	15	18	12	30	9	5	14
5月	2	1	3	7	3	10	14	9	23	14	9	23
6月	8	3	11	17	10	27	35	24	59	20	12	32
7月	4	2	6	13	7	20	33	10	43	16	2	18
8月	6	1	7	14	6	20	34	10	44	11	1	12
9月	9	1	10	23	7	30	59	12	71	14	1	15
10月	13	1	14	27	5	32	71	14	85	17	0	17
11月	10	2	12	31	7	38	62	14	76	14	0	14
12月	9	0	9	34	4	38	75	8	83	21	0	21
1月	7	1	8	35	7	42	71	14	85	17	2	19
2月	5	1	6	28	8	36	56	18	74	9	1	10
3月	3	0	3	25	9	34	49	24	73	11	3	14

※遠隔相談件数は内数

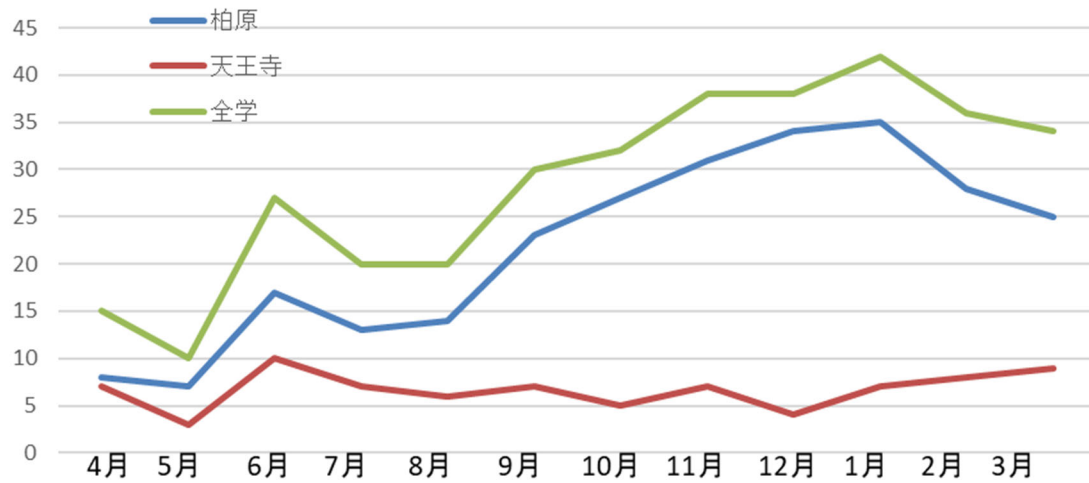


図2 令和2年度 月別利用者数

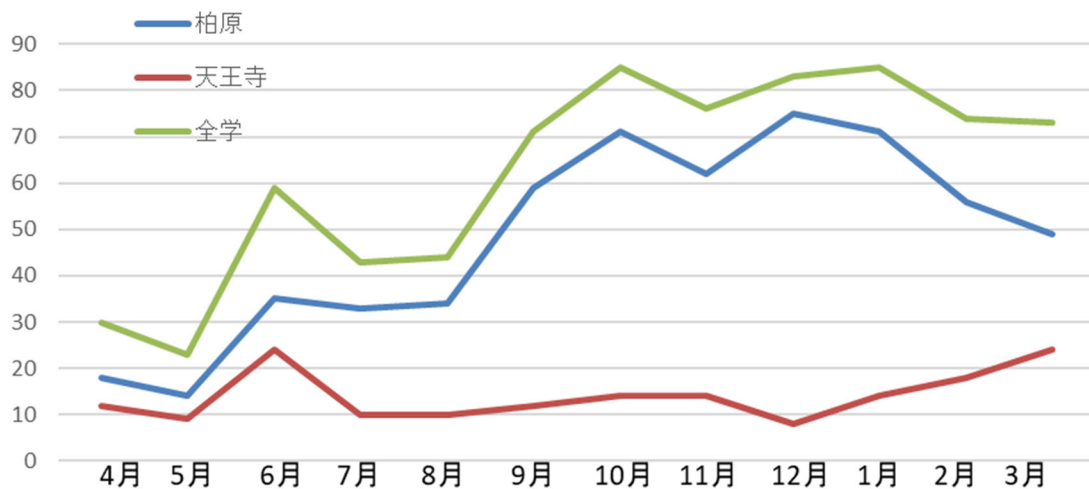


図3 令和2年度 月別延べ面接回数

3. コロナウイルス感染症に対するカウンセリングルームの対応について

カウンセリングルームの基本的な業務は、当然ながら学生相談の中でも特にカウンセリング、つまり学生の心理面のみならず、生活や対人関係、進路など学生生活を取り巻くあらゆる悩みや葛藤について、Face to Face のセッティングで、個室の相談室で秘密を保持しながら相談を受けることである。この方法は密室で会話を伴う。かつ来談と相談内容の秘密は生命の危険のない限り守られなければならないため、ルーム内で感染が蔓延することのリスクは健康面だけでは測れない。

国内外での新型コロナウイルス感染症拡大に対して、カウンセリングルームでは以下のような対応を行った。

(1) 遠隔相談の導入

4月14日にカウンセラー4名(中田、山口、郭、以上非常勤。奥田(専任。当時育休中))と山本センター長、障害学生修学支援ルームの藤原コーディネーターでオンラインミーティングを行った。対面相談の感染リスクと、当面の間学生が入構禁止、事務も交代制の在宅勤務となるなどの状況を踏まえ、まずは電話での遠隔相談の導入を決定した。その後、感染状況や授業状況などを踏まえつつ、オンラインでの相談を導入するか否か、その方法等を検討していた。後期以降、カウンセリングルームで二つの Zoom アカウントの登録が可能となり、柏原と天王寺双方でオンライン面接を導入する準備が整ったため、12月に本格的に Zoom でのオンライン相談を開始した。また、5月の宣言解除後は、学生には対面相談だけでなく、遠隔相談というオプションがある旨を通知し、利用学生の希望を優先して相談の形式を決定した。遠隔相談については申し込みフォームのある HP 上で広報した。

(2) 感染予防対策を行ったうえでの対面相談の再開

対面相談を再開するにあたり、以下の感染防止策を実施した。

- ・利用学生、スタッフの事前の検温の義務付け(37.0度以上は延期)。
- ・発熱がなくても、体調不良の日は来談を控える。
- ・相談室入口での手指のアルコール消毒。
- ・利用学生とスタッフのマスクの着用。
- ・部屋の換気(30分から50分の間隔で、相談が終わるごとに窓やドアを開放し、換気扇を使って換気する。基本的に学生の来談時以外は常時開放する)。
- ・可能な限り椅子を離し、アクリルの衝立をおく。
- ・接触共有するものの消毒(ドアノブ、筆記用具、心理検査用具など)。
- ・感染を把握した場合、大学や保健所に情報提供する可能性の説明と理解を求める。
その場合に備えた緊急連絡先の確認。
- ・上記に関する同意書を作成し、初回相談時に署名を求める(遠隔の場合はメール)。

2020 年度（令和 2 年度）活動報告総括

カウンセラー 奥田紗史美

修学支援センターの障がい学生修学支援ルームおよびカウンセリングルームの 2020 年度（令和 2 年度）活動報告をうけ、ここからはふたつのルームを含む修学支援センターの活動内容について総括し、今後の展望を述べる。

2020 年度は、どちらのルームでも、例年新規の申し込みが多くみられる 4 月と 5 月の新規来談者、利用者の数が減少していることが大きな特徴である。これには新型コロナウイルス感染症の流行と、それにともなう休講やオンライン授業の導入が影響していることは明らかであり、支援を必要とする学生やカウンセリングを求める学生の実数が減少したということではないだろう。現に、後期になり学内に学生が少なからず戻ってくると、カウンセリングルーム（とくに柏原キャンパス）を中心に、支援ルームにも学生が戻ってきている。それは通常の状態なら 4 月や 5 月の時点で、学内の様々な支援に容易にアクセスしていたはずの学生が取りこぼされた可能性があるということでもある。通常 4 年間の大学生活において、半年ないし一年の支援ブランクはそれなりに大きなインパクトがある。Zoom や Moodle の機能を利用した様々なオンライン・遠隔の支援を今後も継続するとともに、学内に現れず、それ故に指導教員や友人たちから異変に気付かれることなく孤立している学生たちにどうアクセスをしていけばよいのかということが、今後のコロナ禍の学生支援において重要な課題となるだろう。

また、2020 年度はコロナ禍と修学支援センターの立ち上げ、そして専任カウンセラーの産育休という変化が一度に起こり、通常の修学支援やカウンセリングに加えて必要となった様々な実務は、主に柏原の修学支援ルームコーディネーターを中心に行われた。カウンセリングルームでは育休代行の非常勤カウンセラーが、通常のカウンセリングのみならず、修学支援センター立ち上げに関連する業務やコロナ対応に関する連絡調整役も担うこととなり、通常非常勤では賄いきれない業務量、および非常勤カウンセラーの裁量を超えた業務内容となっていたと思われる。特に新型コロナウイルス感染症の大流行と社会情勢の変化は通常想定しにくい非常事態であったとはいえ、少ないマンパワーで切り盛りしているところにイレギュラーな事態が重なることの難しさを考えさせられた。今後起こるかもしれない大規模災害など、緊急時のバックアップについても再考する必要がある。特に修学支援センターとして組織が一元化されたことのメリットを生かすとするれば、役割分担を明確にしつつも、緊急時には二つのルームが互いの手の回らないところを補完しあうような、柔軟な連携の形も模索していきたい。また、センター発足に伴いマンパワーが集約されたことで可能となるような取り組みも今後検討していきたい。

このように様々な課題に気付かされた 2020 年度であったが、一方で、Teams や Zoom など、オンラインで学内の一所に集まらずとも意見交換ができるシステムが導入されたことにより、それまでメールや電話、あるいは顔を合わせて互いの空き時間に行っていた情報交

換や、実務者間のミーティングが、より容易にできるようになったことは一つの福音であった。メールと違いやり取りが可視化されるチャットは議論の流れがつかみやすく、過去の情報もすぐに参照できる。対面でなくても顔を見て話せるビデオ通話は、相手の状況が読めない電話と比べて圧倒的にお互いの安心感が高くなり、必要な情報を忌憚なくやり取りするのに役立つ。

また、オンラインや電話などの遠隔相談の導入はコロナ禍が終息したとしても今後も支援の一つの形として残り続けると思われる。なぜなら、感染予防とはまた別の文脈で、遠隔での支援を必要としている学生が一定数いることが明らかになったからである。心理的な問題にせよ、身体的、経済的な制約にせよ、何らかの理由で大学に行くことができない学生でも、遠隔での支援は利用できる。現にそのような理由で遠隔を希望する学生は一定数みうけられる。しかしながら、可能なら電話相談ではなく、対面で話を聴いてほしいと申し込み時に要望するケースのほうが圧倒的に多いのもまた事実である。本当に重要なことは顔を見ながら話した方が伝わる、顔を見ながらの方が安心して話せるというのが、多くの学生たちの本音なのだろう。それらを心に留めながら、本当に実のある、そして必要な学生へ届く支援のかたちを今後も模索していきたい。

令和2年度 修学支援センターの活動報告			
	修学支援センター	障がい学生修学支援ルーム 内 容	カウンセリングルーム
4月			教育実習オリエンテーション【オンライン】 カウンセリングルーム連絡会【オンライン】
5月			
6月	修学支援センター会議【オンライン】		
7月	修学支援センター会議【オンライン】	スタッフミーティング【オンライン】 支援協力学生リーダーズ会議【オンライン】	カウンセリングルーム連絡会【オンライン】
8月	修学支援センター運営委員会【オンライン】 修学支援センター会議【オンライン】	スタッフミーティング【オンライン】 支援協力学生リーダーズ会議【オンライン】	
9月	修学支援センター会議【オンライン】	アクセシビリティリーダー育成協議会総会【オンライン】 関西障がい学生支援担当者懇談会【オンライン】 スタッフミーティング【オンライン】 支援協力学生リーダーズ会議【オンライン】	中田カウンセラー任期満了 奥田カウンセラー育児休業より職場復帰
10月	学生総合支援ネットワーク会議【オンライン】 修学支援センター会議【オンライン】	スタッフミーティング【オンライン】 支援協力学生リーダーズ会議【オンライン】	千葉大学アカデミック・リンク・センターALPSシンポジウム【オンライン】
11月	修学支援センター会議【オンライン】	スタッフミーティング【オンライン】 支援協力学生リーダーズ会議【オンライン】	
12月	修学支援センター会議【オンライン】	アクセシビリティリーダー育成協議会総会【オンライン】 近畿地区障害学生支援協議会【オンライン】 スタッフミーティング【オンライン】 支援協力学生リーダーズ会議【オンライン】	カウンセリングルーム連絡会【オンライン】 公認心理師実習ミーティング 保健センター合同ミーティング
1月	修学支援センター会議【オンライン】	スタッフミーティング【オンライン】 支援協力学生リーダーズ会議【オンライン】	全国学生相談研究会【オンライン】 教育実習サポートミーティング
2月	全学センター統括機構会議【オンライン】 修学支援センター会議【オンライン】	スタッフミーティング【オンライン】 支援協力学生リーダーズ会議【オンライン】	「大阪府にこそ」のほっとライン」協力校対象事業報告会・意見交換会【オンライン】
3月	修学支援センター会議【オンライン】	スタッフミーティング【オンライン】 支援協力学生リーダーズ会議【オンライン】	指導教員説明会【オンライン】 カウンセリングルーム連絡会【オンライン】 保健センター合同ミーティング
備考	修学支援センター会議は月に1回開催	障がい学生修学支援ルーム会議(スタッフミーティング)は月に1回開催 支援協力学生リーダーズ会議は月に1回開催	カウンセリングルーム会議は概ね2ヶ月に1回開催

修学支援センター スタッフ一覧（令和２年度）

氏名	職名	所属
山本 利和	センター長	特別支援教育部門
奥田 紗史美	カウンセラー (柏原担当)	養護教育部門
中田 玲奈	カウンセラー (柏原担当)	非常勤
山口 修一郎	カウンセラー (柏原・天王寺担当)	非常勤
郭 知陽	カウンセラー (天王寺担当)	非常勤
藤原 朝洋	コーディネーター (柏原担当)	学校教育部門
伊藤 愛里	コーディネーター (天王寺担当)	学務部学生支援課
他 障がい学生修学支援ルーム担当職員２名（所属：学生支援課）		

大阪教育大学 修学支援センター 活動報告書 第1号

発効日 令和3年8月11日

発行 大阪教育大学 修学支援センター

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

(代表) 072-976-3211
